

平成24年度 総合型地域スポーツクラブ全国協議会 第1回総会報告

平成24年6月26日(火)、「SHIBUYA SHIDAX HALL (東京都渋谷区)」にて、本年度第1回の「総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)総会」が開催されました。挨拶、議事、グループ協議の様子を抜粋して報告いたします。

<13:30>

1. 挨拶

小倉 二郎 氏 (SC全国ネットワーク幹事長)

昨年11月に、47都道府県すべてに総合型クラブ連絡協議会が設立されました。また、今後、総合型クラブ間の全国的なネットワークの構築を図り、各総合型クラブの自立を促進し、SC全国ネットワークとして具体的に何をすべきなのかを検討するため、先般、各都道府県のご協力のもと、各クラブに対しアンケート調査を実施いたしました。



その結果、「SC全国ネットワークに何を期待しますか」の設問に対し、最も多かった回答が、「情報提供」でありました。その他「都道府県連絡協議会に何を期待しますか」との設問でも、「タイムリーな情報提供」が最も多く、また「近隣のクラブと連携する必要性を感じる」と答えたクラブの理由でも、「運営に関する情報交換」が最も多いという回答結果となりました。

この結果からもわかるように、全国レベルにしろ、都道府県レベルにしろ、近隣のクラブ間レベルにしろ、クラブは、とにかく情報を欲しているということであります。この結果を踏まえ、SC全国ネットワークとして各都道府県連絡協議会のご協力をいただきながら、具体的な事業展開に向け検討していきたいと考えておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

このSC全国ネットワークは、「クラブの、クラブによる、クラブのための」全国組織です。「どこかがやってくれる」ということではなく、自分たちが自分たちのクラブのために知恵を出しあって、SC全国ネットワークを動かしているという意識をいつも持っていただきたいと思っております。

<13:40>

2. 議事

(1) 平成23年度総合型地域スポーツクラブ育成事業報告および決算について

事務局より資料に基づき、特にSC全国ネットワークに関連する事業(地方企画班・SC全国ネットワーク委員合同会議、ブロック別クラブミーティング2011、SC全国ネットワーク事業、総合型地域スポーツクラブ連携支援事業および東日本大震災復興支援事業)を抜粋して報告。

また、収支決算についても上記事業に関係する支出を中心に報告し、了承されました。

(2) 総合型地域スポーツクラブ全国協議会(SC全国ネットワーク)規約の改定について

昨年4月に日本体育協会が公益財団法人に移行したこと、および本会の専門委員

会として総合型クラブ事業を審議する「地域スポーツクラブ育成専門委員会」が新たに設置されたことにより、文言等の変更も含めて改定を行うものとして、事務局より資料に基づき改定箇所を説明し、異議なく承認されました。

なお、規約は6月26日より改定施行となりました。

(3) 総合型地域スポーツクラブ全国協議会に関するアンケート調査結果について

去る平成24年3月23日～5月31日までの期間で、全国のクラブにご協力をいただき実施した標記アンケートの調査概要、各設問における結果および調査結果の公開方法について報告されました。

調査結果については、現在、本会ホームページ上で公開しております。

(4) 総合型地域スポーツクラブ全国協議会ブロック別都道府県代表委員会議について

事務局より、同会議の開催趣旨、協議内容等について資料に基づき報告し、了承されました。

以上協議し、14：40に議事終了。

<14：50>

3. グループ協議 「SC全国ネットワークの『すべきこと』と『できること』」

全体コーディネーター:榎 敏弘 氏

(SC 全国ネットワーク常任幹事/北信越ブロック常任幹事)

(1) テーマの確認 (5分)

【榎】今日のグループ協議のテーマは二つあります。一つは「今の SC 全国ネットワークの組織で『できること』を確認する、もう一つは、『『すべきこと』を『できること』に変えるための組織と財源を考える」ことです。

最初のグループ協議で、『すべきこと』についての優先順位を決めます。次に『できること』を皆さんで考えましょう。最後に組織体制と財源確保のアイデアを出していただきます。今日は、どのようにもっていったらこの SC 全国ネットワークが各クラブにとって素晴らしい組織になっていくのか、ということをご皆さんで考えてみましょう。

「話合いのルール」は、皆さん全員が話をできるようにしてください。そして、人の意見を否定せず建設的に話をする、「うちのクラブ」の話はせずに、「SC 全国ネットワーク」について話をする、メモはとらない（記録者は各グループで1名決定）、皆で良い話ができるよう笑顔の出る楽しい雰囲気でお互い協力し合ってください。



(2) グループ協議① (20分)

グループは、全参加者を5～6名ずつ、合計14グループに分けた。

前回(H24.3.16)のグループ協議まとめ資料を基に、SC 全国ネットワークの「すべきこと」について優先順位づけを行う。

(3) グループ発表① (10分)

グループ協議①で話題になった内容について、全グループで共有。

<各グループから出された意見>

- ・ 情報収集・情報発信。
- ・ 社会貢献（地域の課題解決に役立つ）。
- ・ 認知度アップ。
- ・ 上部組織への提言（アフターtoto）。
- ・ 全国には大きなクラブ、小さなクラブそれぞれあるので、クラブの規模に応じたしかけを全国で行う。
- ・ 認知度、必要性（末端の住民にまで理解されていない）。
- ・ PR・広報→SC 全国ネットワークでやること、各クラブ（個人）でやること。
- ・ コミュニティの中心になるスポーツ→発展させるためにどう支援するか。
- ・ 総合型地域スポーツクラブのネーミングが悪い。各クラブでニックネームのようなものを作り、地域に根付くような仕掛けをする。
- ・ 認知度が低い→行政、議員、学校関係等々に周知。
- ・ 大きな事業を行うためには、それなりの財源必要。
- ・ 情報提供→自主財源の確保、先進的な事例。
- ・ クラブ間の交流。
- ・ 自主性を目指した組織→事務局設置、会費。組織自体が自立するべき。そのためには、広報活動、認知度アップが必要。
- ・ 上に物を言えるから認知度がアップする。上部組織への提言と、PR 活動は同じくらいの重要性である。
- ・ 認知度アップ→SC 全国ネットワークでホームページを作る（トップアスリートにも参加してもらおう）。これを上から下ろしてもらって、各市町村のホームページのパナーとして貼ってもらおう。
- ・ ビジョンの明確化→総合型地域スポーツクラブは「いつでも、どこでも、誰とでも」「多種目、多世代」として、地域のコミュニティづくりとして考えられているが、何をやる団体か分からなくなっている部分もある。

※以上の発表から、「SC 全国ネットワークのすべきこと」として、「情報の提供（情報収集と認知度のアップのための情報発信）」と「上部組織への提言」の2点に絞る。



(4) グループ協議② (20分)

榎氏より、現在の SC 全国ネットワークの組織体制と財源について説明。これに基づき、「できること」を確認。

(5) グループ発表② (10分)

グループ協議②で話題になった内容について、全グループで共有。

<各グループから出された意見>

- ・認知度アップのために→自分たちが活動している施設や地域の老人ホームなどで、全クラブが同時に清掃活動を行う（スポーツゴミ拾い）
- ・提言→国（文科省）へもっともっとスポーツ振興、総合型に力を入れてもらうよう投げかける。国会議員に委員会などで質問してもらうなど。
- ・情報提供
- ・認知度アップ（誰に対して認知度を上げるか？）→市町村行政担当者への研修会の開催、下から盛り上げるべきものであり、口コミにより地域住民への理解を深める（複数のクラブで小さなお祭りを行うなど、地域の認知度を上げる）
- ・クラブ間相互のコミュニケーションで、ビジョンを皆で共有していくことが大切。それぞれ地域で工夫されていることを集約し、情報をリリースしていく必要がある。
- ・認知度アップのために→全国統一のキャッチコピーを公募して、Tシャツやタオル等に入れるようにする。
- ・SCステーション→色々な事例+他省庁の補助金や助成金などの情報を流してあげる。
- ・上部への提言→まずは組織力アップ。ブロックミーティングなどを活用し、将来はSC全国ネットワークが独立していくような気概のもとで頑張らなければならない。
- ・認知度アップのために→NHKとの協力、ホームページを使ったキャンペーン（各市町村のHPとタイアップ：総合型クラブを知らない人へのPR。SCの認知度アップウィークなど）
- ・認知度アップのために→マスコミとの協力：クラブミーティング等でマスコミに取り上げられるようなプログラムを組む（頭を使う）、クラブミーティングを同一日に全ブロック一斉に行う
- ・認知度アップのために（メディア戦略）→市町村教育委員会への働きかけを強める。
- ・その他→「総合型クラブの日」の設定、自己財源確保のための年会費徴収、複数ブロック合同のクラブミーティングで情報共有、ドイツに学ぶ（ゴールデンプランの勉強をする：総力を挙げてマネしてやっ払いこう）、中体連・高体連会長、SC全国ネットワーク幹事長、日本スポーツ少年団本部長の対談



(6) グループ協議③ (25分)

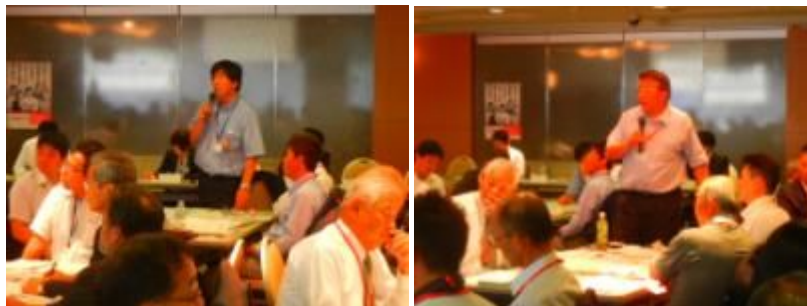
「すべきこと」を「できること」に変えるための組織体制や財源確保について、アイデア出しを行う。

(7) グループ発表③ (10分)

グループ協議③で話題になった内容について、全グループで共有。

<各グループから出された意見>

- ・ SC 全国ネットワークは、会費が出せないから入らないではダメ。会費で自己財源確保。
- ・ 年に 1～2 回の集まりではダメ、もっと数多く議論する機会を持つべき。
- ・ クラブと市町村の関係について、SC 全国ネットワークとして何か物を言うべき。
- ・ 各県代表委員が中心になって取り組んでいくべき、会議時間をもっと増やしていただきたい。
- ・ この組織が国からの事業委託や企業等からの寄付金などを受けるためには、例えば認定 NPO 法人化が必要だが、そのためには自己財源が少なくとも半分以上ないと難しいので、各県(各クラブ)から会費を集めて自立した組織を目指すべき。
- ・ 「新しい公共」の担い手になれるような具体的な提案を出せる団体となるべき。
- ・ SC 全国ネットワークから政治家・行政の長・タレントを出す。ご当地アイドル。
- ・ 各クラブが持っている指導者、マネジャー、ご当地の物産などを、皆で使えるようにしていく。
- ・ 組織体制としては、行政も含めた関係団体が友好的な関係をつくれるように、広域スポーツセンターとのタイアップがうまくできれば良い。
- ・ 募金活動を行う。
- ・ まずは SC 全国ネットワークがしっかりしなければならない。
- ・ 日体協の枠の中から出るのであれば、法人化し、様々な方策をもって稼ぐという意識が必要。
- ・ 各クラブマネジャーの交流。



(8) まとめ (5分)

【榎】いろいろな知恵が出ました。本日出された意見を実行するのは常任幹事ではありません。代表委員の皆さんが力を結集し、その意欲と能力をもって実行していくことにかかっています。

今ががんばり時であると思います。我々一人ひとりができることは小さいことかもしれませんが、大勢の熱い意欲があれば新しい SC 全国ネットワークをつくりあげることができると思います。

本日はたいへんお疲れさまでした。

以上、すべてのプログラムを終了し、17:00 散会。